

(別紙様式)

(A 3 判横)

令和 6 年度 学校自己評価システムシート（滑川町立宮前小学校）

目指す学校像	子供たちの笑顔がいっぱいの学校
--------	-----------------

重 点 目 標	1 学力、体力の向上 2 豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立 3 開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり） 4 教育の質の向上を図る働き方改革
---------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 8名
事務局(教職員) 3名

		学	校	自	己	評	価
		年	度	目	標		
番号	現状と課題●	評価項目	具体的方策（◎重点）	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○授業規律や学習意欲・態度については、概ね良好である。 ●各種学力調査結果の活用を活用した授業改善サイクルを一層推進する必要がある。 ●学習指導要領の主旨を踏まえた指導実践と改善を重ねて充実していくことが課題である。	学力の向上 体力の向上	◎各種学力調査を活用して、本校の実態や課題に応じた学習指導を行う。 ◎主体的対話的で深い学びを目指した授業改善を推進する。 ◎児童の健康・安全を第一とし、感染症対策や熱中症対策に配慮した教育活動を行う。 ○「スタディウィーク」の取組、「家庭学習のすすめ」「ターナちゃんノート」を活用し、家庭学習の充実を実現する。 ○運動への挑戦回数や機会を保障する体育授業と体育活動を実践する。	○学校評価に係る児童・保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し9割以上が好意的な評価をしたか。 ◎国語科の研究を推進し、授業実践や具体的な授業改善の方略を見出すことができたか。（学校课题研究） ○体育授業において子供たちが挑戦する回数・挑戦する時間の保障に向けた取り組みを共有したか。	○「学力向上」に関する好意的な評価は、児童90％、保護者85％だった。 ○文学的な文章の読解力向上を目指し研究を行った。授業研究会は、全体研修3回、ブロック研修3回実施し、叙述にもつづいた学習指導等、共通理解した。 ○1年生が、体育の授業公開を行った。日頃の体育の指導について、さらに共通理解をしていく必要がある。	A	○国語及び各教科等において、引き続き「読解力」を向上させていく。 ○他教科の指導力向上に向けた研究を行う。 ○児童の健康・安全を第一とした教育活動を引き続き行う。 ○体育の授業に進んで取り組む児童を育成するような工夫を広める。
2	○自己有用感の育成、傾聴の指導は、成果が継続されている。 ●自己有用感の育成、傾聴の指導を継続する。 ●校外でのあいさつ、丁寧な言葉遣いに課題がある。 ●ケース会議等、校内の連携充実を図るとともに関係諸機関の連携強化を継続する。	豊かな心の育成 基本的な生活習慣の確立	◎保護者面談・家庭訪問・電話連絡等により、児童の心情と学習・生活の状況の把握、児童のよさを共有し、学校と家庭で見届けの充実を図る。 ○自己有用感の育成、傾聴の指導の連鎖を実現する。 ◎相手に伝わるようなあいさつの仕方（声、動作）の指導を継続する。 ○研修により課題のある児童に対する指導力の向上を実現する。 ○校内ケース会議の実施による校内支援体制と指導方略の構築・共有・協働をより明確にする。 ○教育委員会・健康福祉課・保健センター・嵐山学園・民生委員等関係諸機関との連携を強化する。	○児童、保護者対象のアンケートで、基本的生活習慣の確立に関し9割以上が好意的に評価したか。 ○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認めたか。 ◎校内支援体制の充実と関係諸機関との連携により、課題を解決したか。	○「基本的生活習慣の確立」に関するアンケートの好意的な回答は、児童92％、保護者86％だった。 ○教職員の肯定的な評価は、80％だった。 ○日頃から報告・連絡・相談・記録を行った。必要に応じてケース会議を開催し、チームとして対応した。 ○今年度から「子供支援会議」を組織し、多角的な視点から児童のよりよい教育について協議・実践した。 ○滑川町教育委員会・滑川町福祉課と連携した。	A	○「時・場・礼」を大切にしたい指導を教員が手本となって推進する。 ○引き続き「あいさつ」の指導をする。児童が、地域の方・来校者に、自らあいさつできるよう随時指導する。 ○校内組織の活用・関係機関との連携を今後も推進し、生徒指導・教育相談を充実させる。
3	○「開かれた学校」について好意的な評価を得ている。 ○見守り活動・奉仕作業・読書ボランティア・資源回収など、保護者・地域の方々から多くの支援をいただいている。 ○PTAと「親路の会」による奉仕作業を複数回実施できた。 ●学校公開日を設定し、保護者・地域に普段の学校の様子を見ていただく機会を設ける。	開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり）	○学校の方針を丁寧に説明する。 ◎スピード感のある対応の徹底する。 ○保護者や地域住民の意見や不安に教員自ら自分の言葉で応え、丁寧に説明し、合意形成を図る。 ◎保護者面談・家庭訪問・電話連絡等により、児童の心情と学習・生活の状況の把握、児童のよさを共有し、学校と家庭で見届けの充実を図る。（再掲） ○配慮が必要な児童等への働きかけや懸案事項の解決に向け、関係諸機関との連携を強くしていく。 ◎教職員に「学校が地域のランドマークとなる」ことの意識付けを図る。	○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、9割以上が好意的に評価したか。 ○地域の方々への公開を設定したか。	○「開かれた学校」に関する保護者の好意的な評価は85％だった。 ○11月30日（土）に学校公開日を設定し、保護者・地域の方に本校の教育活動を公開した。 ○電話連絡・家庭訪問・教育相談等により、適宜、学校と保護者と情報共有した。	B	○学校ホームページの更新を進める。 ○次年度も、学校公開を実施し、保護者・地域に本校の教育活動を知っていただく。
4	○出勤退勤時刻を把握し、仕事の優先順位の意識等、タイムマネジメントの意識が出てきている。 ○SSS（スクールサポートスタッフ）の活用を推進している。 ○教職員の働き方改革について保護者等への説明・周知が進んできている。 ●80時間/月を超える時間外在校時間の職員がいる。 ●教育の質の維持・向上のための「働き方改革」を意識し、行事の精選や教職員の意識改革を進める。	教育の質の向上を図る働き方改革	◎時間外在校時間の目標設定から、教職員のタイムマネジメントを推進する。 ○本校の働き方改革についての方針・取組等を、保護者・地域へ様々な機会を通じて説明する。 ○行事の目的を再確認し、内容等の精選を進める。 ○行事担当職員の企画・運営への挑戦を支えていく。	○時間外在校時間の削減を進めることができたか。 ◎80時間/月を超える時間外在校時間の職員を0人にできたか。 ○教育の質を維持向上できたか。 ○教職員が挑戦する意欲をもって、取り組むことができたか。	○定時退勤推奨ウィークを実施した。 ○80時間/月を超える職員を0にできなかった。 ○表札訪問の実施、運動会を得点制に変更、持久走の取組を変更（大会形式の廃止）、夏休みの教育相談を実施した。	B	○授業における余剰時間を減らし、教職員の負担を軽減する。 ○教育効果と教職員負担軽減を勘案し、学校行事等の計画・実施をする。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和7年3月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・ICTを活用した教育をしている。必要な場面に応じて活用できるよう工夫をしている。 ・アンケート結果は、児童と教師で差がある。ここまで育ってほしいという教師の思いがあり、教師にとっての反省も含まれた結果となっている。 ・児童は家庭学習をやらなければいけないという意識が高い。家庭学習の質も高めているが、児童と教師の意識に違いがある。それが、アンケートに現れている。 ・高学年の読書は、量と共に内容も高まるとよい。読書のさせ方にも工夫が必要なのではないか。 ・今年度から組織した「子供支援会議」はよい取組である。教職員の中から声があがったことから設置へとつながっていったという流れもよかった。 ・義務教育における不登校児童を減らすためには、小学校からの支援が重要である。 ・児童のよりよい教育のため、学校と保護者との連携が重要である。 ・最近、土日に地域で小学生が遊んでいる姿を見かけない。習い事に通ったりや自宅でゲームをしたりしていることも多いようである。コロナを機に、子供たちの行動が変わってきたと感じる。
・保護者にも、年1回奉仕活動に協力していただいている。今年度は、9月に実施した。 ・学校の環境整備には、親歳の会に御協力いただき、感謝している。
・デジタル教科書の活用が効果的である。引き続き有効な活用の仕方について研究を進めていくとよい。 ・ICTを授業に活用しており、分かりやすい授業実践に効果的である。ただし、そのための準備が負担となる。時間の使い方を考える必要がある。宮前小では、学年内で分担して資料を作成・共有している。 ・ICTもよいが、自分で「書く」ことも大切である。大事なことは、書く時間も確保してほしい。